

糖尿病ケアの知恵袋

よき「治療同盟」をめざして

編集：石井均

定価2,835円(税込)，B5判，医学書院，2004

☎ 03-3817-5657



糖尿病妊婦への「知恵」も
この一冊に!

評者●福島 千恵子

三重大学医学部附属病院・助産師

この本の特徴はPart1「事例編」とPart2「解説編」の2部構成となっているところです。

Part1「事例編」は経験豊かな医師，栄養士，理学療法士らによる8つのカンファレンスが収録されており，アメリカで育ったエンパワメントという考え方が，日本で，どのように日常診療の支えとなっているか，また，どのような効果を上げているかを読み取ってほしいという希望がこめられていました。Part2「解説編」では，食事，運動，経口薬，インスリン，血糖自己測定，高齢者，心理的アプローチという7つの側面から，糖尿病療養指導で直面するさまざまなトラブルポイントについて，臨床的な解決方法が具体的に提示されています。

この本の編者である石井均氏(天理よろず相談所病院)は，「はじめに」でエンパワメントとは本来，患者さんと私たちのなかに眠っている力—問題解決能力を開花させることであり，そのための関係づくりを表す言葉であると述べています。エンパワメントという考え方は，私たち助産師にも共通する側面があるように思います。また，糖尿病の治療において，まず医療者と患者がともに問題解決に取り組む仲間であることを，お互いに確認できることが大切であり，この関係は「治療同盟」という用語で表現されていました。「助産」の領域に「治療同盟」という言葉は，しっかりとこないかもしれませんが，ともに問題解決に取り組む仲間であることは，共通していると感じます。

私は，勤務している施設の特异性から，糖尿病を抱えながら妊娠・出産を経験する方とのかかわりが多いため，糖尿病に関する知識を深めてい

きたいと常日頃思っています。そのようななかでこの本と出会いました。

この本は，糖尿病療養指導をめざすすべての医療者を対象に，「治療同盟のあり方」「エンパワメントの可能性」を理解する方法の1つとして，まとめられています。そのため，私たち援助者が困った時にどのように援助していけばよいのか，どのようにしたら相手や自分が変わることができたのか，というポイントが具体的に，わかりやすく記載されており，タイトルの「知恵袋」という言葉が本当に適切な本であると感じました。

「事例編」には，“女性糖尿病患者にとって妊娠・出産はターニングポイント!”であるとチェックポイントで明記されています。妊娠中の心理状態は，「生まれてくる子どものために血糖に支配される体験」と表現され，とてもストレスフルな状態であることがわかります。一般に妊娠すると，生まれてくる子どものために，最大限，努力をして治療に前向きとなり，専門的な知識を助産師に求めてくることも私自身，多く体験しています。本書には，女性糖尿病患者は「出産後には糖尿病に対して肯定的になり，積極的な人生を送ろうと考え方が変わることがよく聞かれ，そのような心の変化を家族とともに援助していきたい」とのコメントもあり，私もまったく同感でした。助産師の特异性を生かして女性糖尿病患者が，よりよい人生を送るきっかけとなるような援助を考え，実施するにはどうするか改めて考えさせられます。そのためにも，この本のような「知恵袋」を考えていく必要があるのではないのでしょうか。